

JASDAQ

証券コード:4712

あなたの
笑顔のために
Create
Happiness



40th Business Report

株主通信 2006.4.1—2007.3.31



アドアーズは 新たな成長ステージへ向かいます。

代表取締役社長 中川 健男



当期業績について

主力のアミューズメント施設運営事業への 集中的な取り組みが奏功し、既存店を 中心とした業績回復を果たすことができました

株主の皆様におかれましては、平素より当社事業に対し格別なるご理解・御愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。第40期の株主通信をお手元にお届けするにあたりまして、私よりひとことご挨拶を申し上げます。

当社が属しますアミューズメント施設運営業界におきましては、景気拡大に支えられた安定的な市場成長が見られるなど、業界全体としては明るい見通しで推移しております。しかしながら、機器および店舗の大型化などの影響から中小規模店舗の統廃合が進んでいることに加え、大手による寡占化も一部見受けられるなど、2極化の構図は強まっており、成長市場の中でのシェア競争は激しくなっていくものと予想されます。

このような環境の中で、当社は昨年5月より経営体

制を強化し、主力事業でありますアミューズメント施設運営事業での市場シェアの拡大と顧客満足度の追求を重点目標と掲げ、既存店における積極的な設備投資や年間5店舗の新規出店計画の達成、運営組織体制の見直しなど、様々な事業改革・推進を行ってまいりました。この結果、当期における業績は売上高20,483百万円（前期比14.5%増）、経常利益1,267百万円（同21.1%増）、当期純利益348百万円（同83.2%増）と増収増益になりました。

増収増益となりました要因と致しましては、主力であるアミューズメント施設運営事業への集中的な取り組みによる既存店の業績回復と年次新店計画の達成、更には施設関連事業やレンタル事業が著しく伸びたことがあげられます。これに加え、上期後半より実施した徹底した効率的な店舗運営体制の推進を含む、全社一丸となったコスト削減が体制強化や投資・新店開設等によるコスト増を上回り、大幅な増益を達成することができました。

このような結果をご報告できましたのも、ひとえに株主様やお客様、お取引先の皆様のご協力、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

次期の見直しについて

新経営体制のもと、変化・成長・スピードの スローガンを掲げ、更なる成長を目指します

次期における当社の方針と致しましては、「変化・成長・スピード」を次期スローガンとして掲げ、現状維持にとどまることなく更なる成長を目指し、市場競争力の確保を重視した拡大成長戦略のもと、業績の拡大に邁進する所存であります。

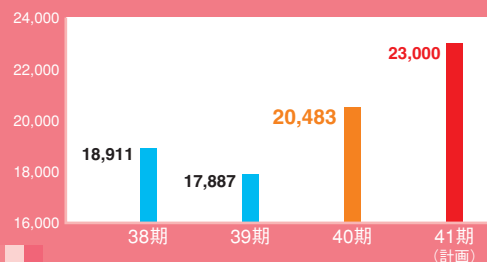
アミューズメント施設運営事業におきましては、既存店の回復基調を維持・加速させるため、店舗リニューアルや機器の積極的な投資、顧客満足度を高める当社独自の各種施策を適時行い、市場競争力の強化に努めます。更にマーケットシェアの拡大を目指し、今期同様の5ヶ店以上の開設を計画しています。

各種施設開発・設計・施工事業におきましては、引き続き自社新規店舗の設計・施工に注力する一方、大型案件の複数受注を目指します。パチスロ機・周辺機器レンタル事業および不動産事業におきましても管理体制を一層強化することで安定的な収益確保を見込んでおります。

上記の活動を通じた次期の業績見直しにつきましては、売上高23,000百万円（当期比12.3%増）、経常利益1,150百万円（同9.3%減）、当期純利益350百万円（同0.6%増）を計画しており、新経営陣および全従業員一同、計画達成に向けて邁進してまいります。

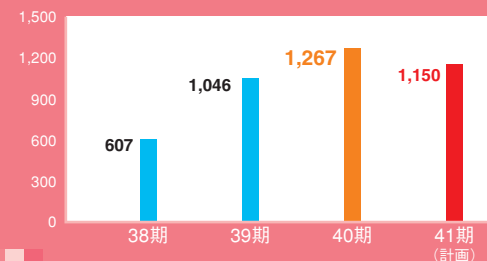
●売上高

(単位:百万円)



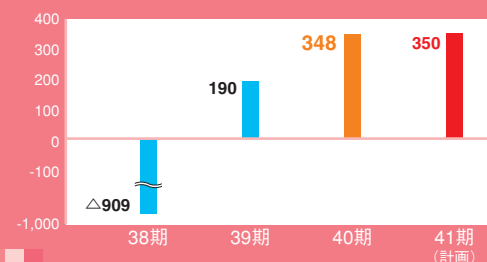
●経常利益

(単位:百万円)



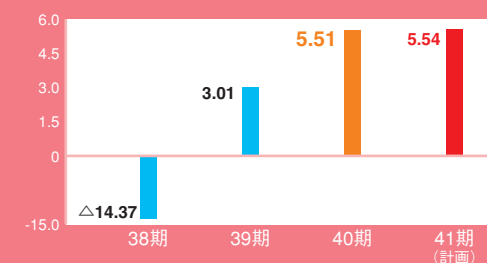
●当期純利益

(単位:百万円)



●1株当たり当期純利益

(単位:円)



『アミューズメント施設 運営オペレーター No.1』 を目指し、成長を加速させます



経営体制の更なる強化

新経営陣のもと、「ヒト・モノ・カネを集中させた効率的な経営体制の構築」を目指します

前期の経営体制の強化による業績回復を受け、本年6月27日の株主総会をもって、取締役経営企画室長の中川健男を代表取締役社長に、同じく取締役管理本部長の八多川昭一を代表取締役専務とする代表取締役2人体制への移行を決定致しました。前期構築し

たスピード経営は維持しながらも、今後の成長基盤・拡大路線を支える精度の高い経営意思決定を実現してまいります。

今後も新経営体制のもと、中長期目標である「アミューズメント施設運営事業」およびこれらのノウハウを活かした「各種施設開発・設計・施工事業」を当社の強みととらえた「ヒト・モノ・カネを集中させた効率的な経営体制の構築」の実現に邁進してまいります。

今後の方向性について

業界で最も競争力のあるオペレーターを目指し、シェアの拡大と業界No.1の運営効率を実現します

当社の中核事業でありますアミューズメント施設運営市場は店舗や機器の大型化・高価格化などの影響もあり、寡占化の構図がますます強まっております。このような激化する市場で勝ち抜くためには、「マーケットシェアの拡大・収益性の向上」による市場競争力の確保が急務と考えており、「業界で最も競争力のあるオペレータ





ー」をスローガンに、当面は売上高・経常利益の向上を重視した拡大・成長戦略を推進し、収益性を伴ったシェアの拡大と業界No.1の運営効率

を目指してまいります。

前期、回復基調にのった既存店に関しましては、市場・競合分析に基づいた施策や顧客ニーズに応えるマシンラインナップの充実はもちろん、当社独自の運営ノウハウ・付加価値の高いサービスを最大限発揮し、顧客満足度を更に高めてまいります。上質なサービスの提供には人材育成が重要と位置づけ、今後も教育・研修体制の強化に努めます。また新規店舗開設に関しましては、拡大成長戦略の柱ととらえ、年間5ヶ店以上の出店を目標として積極的に進めてまいります。

また事業規模の拡大およびアミューズメント施設運営事業とのシナジー効果が期待できる分野に関しましては、積極的なM&Aや事業提携などにより早期の事業化を推進し、新たな収益機会の拡大に取り組むことで企業価値の極大化を目指します。

株主の皆様へのメッセージ

株式時価総額の極大化を図ることで、株主価値を高めてまいります

私たち新経営陣は長期的かつ総合的な株主価値の極大化を経営の重要課題として認識しており、当社理念を実践することで、株式市場での評価を高めていくことを基本方針としております。中長期的な経営目標としては、株主資本比率（ROE）10%以上を掲げ、収益性と資本効率を高めて総合的な企業価値の増大を目指してまいります。

配当につきましては、経営環境・業績の状況を勘案し、中長期的な事業計画に基づいた新規出店・既存店等の設備資金に充当するための必要な内部資金とのバランスを配慮するとともに、利益水準・配当性向についても念頭におき、株主の皆様に対する利益還元の充実を図ってまいります。

今後もアミューズメント施設運営オペレーターNo.1を目指し、更なる成長を実現してまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご愛顧を賜りますよう宜しくお願い致します。



トピックス

西の広島から北は青森まで。今年のアドアーズは全国展開・複合化を推進

前期の出店に共通することは「アミューズメント業界全体に見られる大型・複合傾向」を意識して出店したことです。今までアドアーズと言えば首都圏・駅前繁華街立地でしたが、前期は最近のトレンドを軸に店舗開発戦略を見直しました。大型化を実現できる用地確保のため、開発地域を全国へ拡大。集客力向上のための各種複合化・テナント誘致等だけでなくマーケット・立地ごとの個別戦略をたてることで強い集客力をもつ魅力ある店舗づくりを目指しました。

昨年4月に開設した当社最大営業面積の「錦糸町店」をはじめ、5ヶ店すべてが複合型かつ大型の店舗。今期も5月には、北海道初進出となる札幌北42条店と札幌狸小路店を出店するなど、1店舗1店舗、着実な成功を積み重ねております。

当社独自の運営ノウハウに、遠隔地オペレーションを加え、アドアーズは全国展開で拡大・成長戦略を推進していきます。



◀北海道エリアの拠点として期待
アドアーズ狸小路店
(2007年5月26日オープン)



▲北海道エリア初出店となる
アドアーズ北42条店
(2007年5月22日オープン)



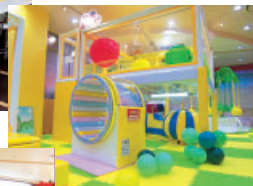
◀オープニングから活況に沸く
「遊キッズ愛ランド」2号店
(アドアーズ北42条店併設)

大人からファミリーまで。みんなが楽しめるアミューズメント施設の開発

当社が今まで得意としていた駅前型店舗と違い、今期出店の複合型施設には施設ごとにファミリー、カップル等、異なったお客様層が来店されることがわかりました。これらの異なる層のお客様にも愛される魅力ある店舗づくりをするにはどうすればいいか、マーケットに合わせた研究も進めました。当社初出店となる子供向け室内遊園施設「アドアーズ キッズアスレチックカフェ～遊キッズ愛ランド～」はそんな思いの中で生まれました。

錦糸町店に開設した第1号店はおかげさまで、お客様連れのお客様の憩いの場所として予想を上回る集客に恵まれ、本業のアミューズメント施設への波及等にも大変貢献しております。今年の5月には第2号店として北42条店の一区画で開設致しましたが、オープン以来こちらも大変好評を博しております。

今後も「夢感動あふれる遊空間」の実現のため、アミューズメント施設に遊びに来られるお客様の満足度向上を目指し、「遊キッズ愛ランド」をはじめマーケットに合わせた様々な研究・提携を重ねてまいります。

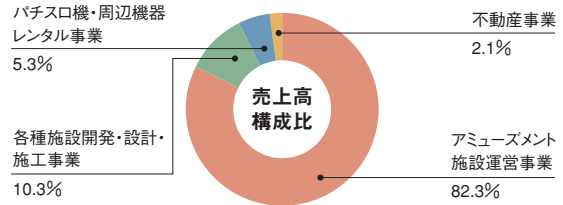


▲キッズアスレチックカフェ店頭イメージ

事業の概況

当期の売上高は204億83百万円(前期比14.5%増)、営業利益12億79百万円(同16.5%増)、経常利益12億67百万円(同21.1%)当期純利益3億48百万円(同83.2%増)と、増収増益となりました。

以下に事業別の概況をお知らせいたします。



アミューズメント施設運営事業

当事業におきましては新店は4月の錦糸町店をはじめとして広島駅前店(広島県初出店)、西船橋店、岩出店(和歌山県初出店)青森中央店(東北初出店)と、計画通り5店舗を出店しました。特に錦糸町店と青森中央店は予想を上回る集客に恵まれ全社売上にご貢献しております。

既存店におきましては期初のポイント制度の刷新以降、ポイントカード会員が大幅に増加していることに加え、積極的な機器投資や各種イベント実施が奏効し下期以降は前年売上対比100%を超える推移を維持し回復基調が顕著であります。

以上の結果、売上高は168億69百万円(前期比5.2%増)となりました。

各種施設開発・設計・施工事業

当事業におきましては上期からの営業体制の見直しと、下期からの施工体制の強化により、大型ホールの内外装案件を複数受注するなど実績を大幅に伸ばすことができました。この結果、売上高は21億5百万円(前期比480.4%増)となりました。

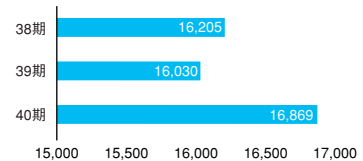
パチスロ機・周辺機器レンタル事業

当事業におきましては前事業年度に契約したパチスロ機、周辺機器のレンタル料等の回収が順調に進み、売上に大きく寄与しました。この結果、売上高10億84百万円(前期比224.7%増)となりました。

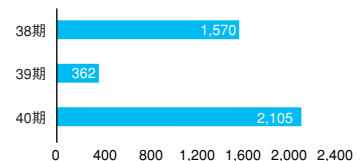
不動産事業

当事業におきましては安定した不動産賃貸収入により概ね計画通り推移いたしました。この結果、売上高4億24百万円(前期比△63.4%増)となりました。

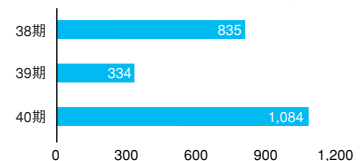
■アミューズメント施設運営事業売上高 (単位:百万円)



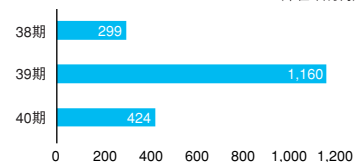
■各種施設開発・設計・施工事業売上高 (単位:百万円)



■パチスロ機・周辺機器レンタル事業売上高 (単位:百万円)



■不動産事業売上高 (単位:百万円)



財務諸表

新たな会計基準の導入により、財務諸表は以下のように変更となっています。

貸借対照表「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

損益計算書末尾の「未処分利益」の計算区分が廃止されました。これは、期中における剰余金の変動は、2006年5月1日施行の会社法により新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるためです。

「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様に帰属する株主資本について、その会計期間における変動事由と変動額を、単体ベースでご報告するために作成する計算書類です。

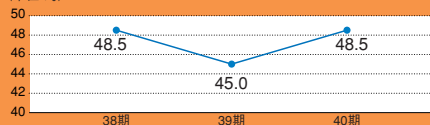
財務健全比率

●株主資本比率

48.5%

株主資本比率はレンタル事業の中長期債権の回収が進んでいる等の影響から、3.5ポイント改善し48.5%となりました。一方で有利子負債は、AM機器の投資や新規店舗の開設経費が前期よりも大幅に増えたものの、投資資金の選択と集中を重視した結果、前期末に比べ若干減少し、9,365百万円となりました。今後は資金コストを勘案した上で資金調達方法検討するなど、財務体質の効率化を推進致します。

(単位:%)



貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第40期 2007年3月31日現在	第39期 2006年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	9,065	9,998
固定資産	19,697	20,590
資産合計	28,762	30,589
●負債の部		
流動負債	7,839	10,001
固定負債	6,972	6,819
負債合計	14,811	16,820
●資本の部		
資本金	—	4,000
資本剰余金	—	5,855
利益剰余金	—	4,045
株式等評価差額金	—	12
自己株式	—	△145
資本合計	—	13,768
負債及び資本合計	—	30,589
●純資産の部		
株主資本	13,941	—
資本金	4,000	—
資本剰余金	5,855	—
利益剰余金	4,235	—
自己株式	△149	—
評価・換算差額等	8	—
純資産合計	13,950	—
負債、純資産合計	28,762	—

注:掲載した財務諸表は、主要な項目を表示しています。また、全て単位未満を切り捨てて表示しています。

■ 損益計算書

(単位:百万円)

科目	第40期	第39期
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
売上高	20,483	17,887
売上原価	16,524	14,556
販売費及び一般管理費	2,679	2,233
営業利益	1,279	1,098
営業外損益	△11	△51
経常利益	1,267	1,046
特別損益	△707	△484
当期純利益	348	190

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第40期	第39期
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,636	5,112
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,932	△605
財務活動によるキャッシュ・フロー	△849	△1,787
現金及び現金同等物の増減額	△144	2,719
現金及び現金同等物の期首残高	6,114	3,394
現金及び現金同等物の期末残高	5,969	6,114

■ 株主資本等変動計算書 第40期 (2006年4月1日から2007年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成18年3月31日 残高	4,000	5,855	4,045	△145	13,755	12	13,768
事業年度中の変動額							
剰余金の配当(注)		0	△157		△157	0	△157
当期純利益		0	348		348	0	348
自己株式の取得		0	0	△4	△4	0	△4
自己株式の処分		△0	0	0	0	0	0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)		0	0		0	△4	△4
事業年度中の変動額合計	0	△0	190	△4	185	△4	181
平成19年3月31日 残高	4,000	5,855	4,235	△149	13,941	8	13,950

注:掲載した財務諸表は、主要な項目を表示しています。また、全て単位未満を切り捨てて表示しています。

平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

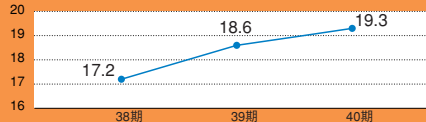
収益性

● 売上高売上総利益率

19.3%

売上高売上総利益は、積極的な機器投資や新店規開設による償却費が増えたものの、既存店の業績回復や効率的な運営組織体制の推進が大きく寄与し、0.7ポイント改善し19.3%となりました。次期に関しましては今期以上の新店開設計画しており、償却負担は更に増えるものと見込んでおりますが、収益性の維持を目指し全社一丸となってコスト削減に努めます。

(単位:%)



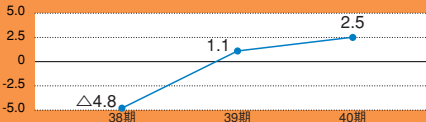
効率性

● 株主資本当期純利益率

2.5%

株主資本当期純利益率は前期に比べ1.1ポイント改善し2.5%となりました。当社は重要視する経営指標としてROEを掲げており、中長期目標である10%達成に向け、経営体制の強化をはじめ収益基盤を確固たるものにしてまいります。今後も収益性と資本効率を高めて総合的な企業価値の増大を目指します。

(単位:%)



会社概要／株式の状況 (2007年3月31日現在)

社名 アドアーズ株式会社 (ADORES, Inc.)
 創業 1964年2月11日
 設立 1967年12月25日
 資本金 40億円
 社員数 325名、臨時従業員758名
 本社事務所 〒103-0002
 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番3号
 Tel. (03) 5623-1100 (代表)

事業所 海老名事業所：〒243-0415
 神奈川県海老名市上河内19
 神奈川トナミ運輸倉庫(株)東名支店倉庫内
 Tel. (046) 237-3451 (代表)

事業内容 ●遊戯場施設の運営及び運営サポート
 ●アミューズメント施設の企画、開発及び販売
 ●アミューズメント施設のデザイン、施工及び監理
 ●遊戯機器及び遊技機器・部品のレンタル
 ●遊戯機器及び遊技機器・部品の修理及び保守管理業務

ホームページ <http://www.adores.co.jp/>

役員 (2007年6月27日現在)

取締役会長 鈴木 英一
 代表取締役社長 中川 健男
 代表取締役専務 八多川 昭一
 取締役 小泉 基靖
 取締役 石田 政三
 取締役 土屋 寛
 取締役 野本 文之輔
 常勤監査役 森田 敦
 監査役 田村 達美
 監査役 上野 勝
 監査役 柴山 高一
 監査役 板谷 嘉之

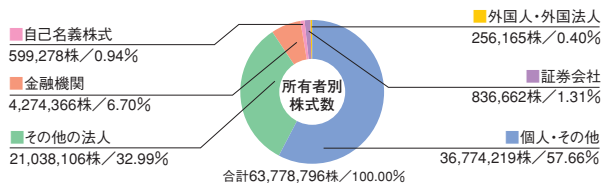
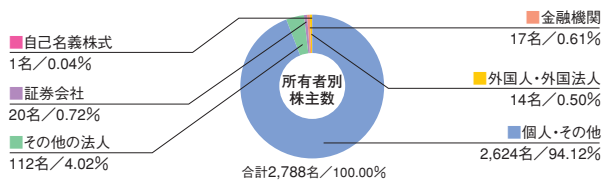
■株式の状況

発行可能株式総数 …………… 130,000,000株
 発行済株式の総数 …………… 63,778,796株
 株主数 …………… 2,788名 (うち、単元株主数2,256名)

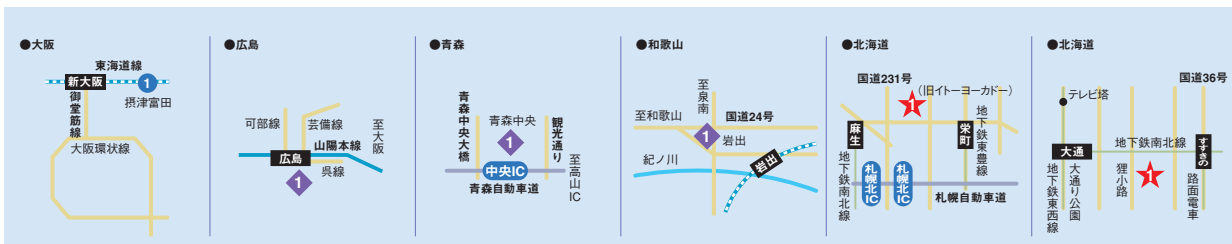
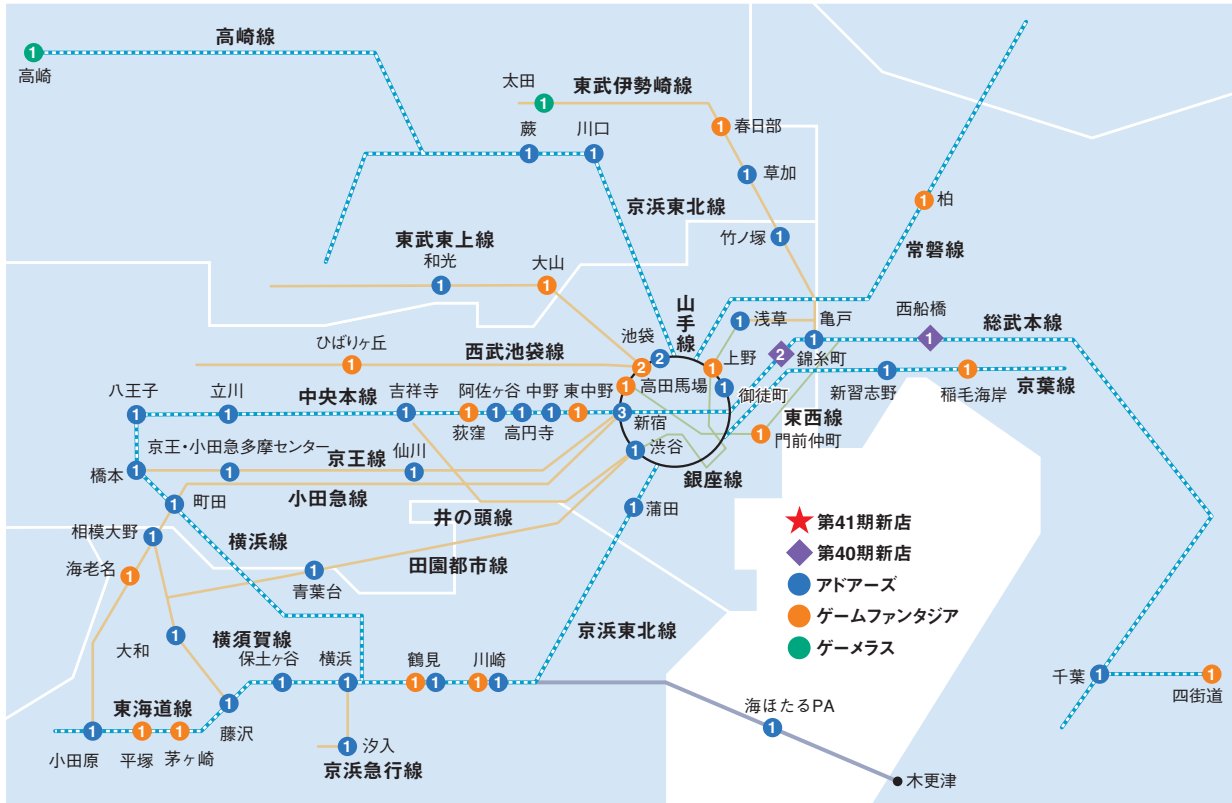
●大株主

株主名	当該株主の当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
GF投資ファンド投資事業有限責任組合	20,500,000	32.81
アルゼ株式会社	19,212,000	30.75
日本証券金融株式会社	3,258,000	5.21
鈴木 昭作	2,046,486	3.27
星 久	1,131,924	1.81
株式会社ヤマニ興業	624,460	0.99
岡田 浩明	606,000	0.97
北吉 孝一郎	383,000	0.61
アドアーズ従業員持株会	347,965	0.55
今村 博	345,000	0.55

注：上記のほか、当社名義の株式が599,278株あります。



●直営店舗



東京:30、神奈川:16、埼玉:5、千葉:7、群馬:1、大阪:1、広島:1、青森:1、和歌山:1、北海道:2 計65店舗

※中の数字は店舗数を表しています。 ※2007年6月27日現在

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告により当社ホームページ(http://www.adores.co.jp)に掲載。 ただし、事故・その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載致します。

●株主関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話 (通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

●単元未満株式の買増制度について

当社は「単元未満株式の買増制度」を導入しております。単元未満株式を有する方は、当社に対してその単元未満株式の数と併せて1,000株となる数の単元未満株式を売渡請求することができます。

お手続きなどの詳細につきましては、株主名簿管理人あてご照会ください。(単元未満株式の買取請求につきましても、従来どおりお取扱い致しております。)

コーポレートホームページリニューアルについて

2007年4月より、コーポレートホームページをリニューアルしました。当社ホームページでは、当社の事業内容や、店舗情報、IRニュースなど、当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。

<http://www.adores.co.jp/>



株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願い致します。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4712

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書が
お手元に到着してから約2ヶ月間
(2007年8月31日まで)です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で簿謝(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施致します。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com

アドアーズ株式会社

ホームページ: <http://www.adores.co.jp/>

本誌に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

経営企画室IR・広報グループ: (03) 5623-1115